

山口県の重要伝統建造物群保存地区の景観維持における建設業者の関わり方

内田文雄 (感性デザイン工学専攻) 田村彰浩 (感性デザイン工学専攻)

A study on actual situation of how to relate to maintain the traditional landscape of important preservation district of historic building by local construction companies in Yamaguchi perfection.

Fumio UCHIDA (Professor, Graduate School of Sciences and Engineering)
Akihiro TAMURA (Graduate Student, Graduate School of Sciences and Engineering)

In this paper, we focus on landscape maintenance activities of construction companies in Yamaguchi Prefecture 5 district, from the survey of them, and clarify issues that are having the actual situation of the contractors involved in the repair landscaping, efforts to resolve. From that, it is necessary to consider issues and future effectiveness of the efforts of builders is an object. Results of Survey, is organized established by the builders in the four districts Hagi, that there is validity very even compared with Senshinchi became clear that the efforts that have been made in it. On the other hand, that the future, in order to go conducted continue to repair landscaping, organization of construction companies, development of human resources, ensure the successor is an urgent issue revealed in Yanai.

Key Words: *Important Historic Buildings Preservation District for Groups, Builder, Historic landscape Conservation, Maintenance, Town Planning*

1. 研究背景と動機

歴史的景観の維持は住民・行政・建設業者の相互関係が重要な要素となっている。それは、指定物件の所有者・管理者の理解、さらに住民の協力が不可欠であり、行政が所有者・管理者・市民等と十分な連携をとる必要がある。また、建設業者の技術力・人材の確保・住民、行政との連携が必要とされる。しかし昨今では、経済状況の悪化や人口の減少に伴い、建設業者の倒産や廃業に追い込まれる事態が増加し、景観維持を行う技術者の喪失が起こっている。このような状況の中、近年、特定の建設業者を中心に技術者の確保や伝統技術の継承などを目的とした実践的な試みがなされている。本研究では、実践的試みが報告されている山口県萩市4地区、柳井市1地区の重伝建地区を調査対象地として選定し、その各地区における建設業者による取り組みの実態について調査する。

2. 研究目的

本研究では調査から、修理修景に関与する建設業者の実状と建設業者の抱えている課題、解決のための取り組みを明らかにすることにより、建設業者による景観維持活動の実態を把握する。そこから、山口県内5地区における取り組みの有効性や今後の課題を明らかにすることにより、継続的に景観維持を行う上での建設業者の今後の在り方について考察することを目的としている。

3. 研究方法

本研究では調査対象地として選定した各地区の修理修景に関与する建設業者、行政担当者へのヒアリング調査を行う。また、行政機関の文献調査のデータ整理などから修理修景工事の分析を行い、さらに先進的取り組みとして、福岡県八女市八女福島、うきは市筑後吉井、和歌山県湯浅町を先行事例として挙げ、比較分析等を行うことで、山口県下5地区の建設業者による取り組みの内容を考察する。

4. 山口県内の修理・修景に携わる建設業者の実態調査

萩市・柳井市の両市における建設業者の実状や課題の整理とともに、それらの課題解決のための建設業者の取り組みとその効果に関する実態調査を行った。

4-1-1. 萩市における修理修景の推進体制

萩市では昭和 51 年に堀内・平安古地区、平成 14 年に浜崎地区、平成 23 年に佐々並地区が重伝建地区に指定されており、その修理修景は(Figure 1)の流れで進められる。その中で、行政側が『萩つくる会』(以下、つくる会)という建設業者による組織に相談・業務調査依頼し、修理修景工事を行う流れになっており、つくる会が萩市の歴史的景観維持における中核を担っている。

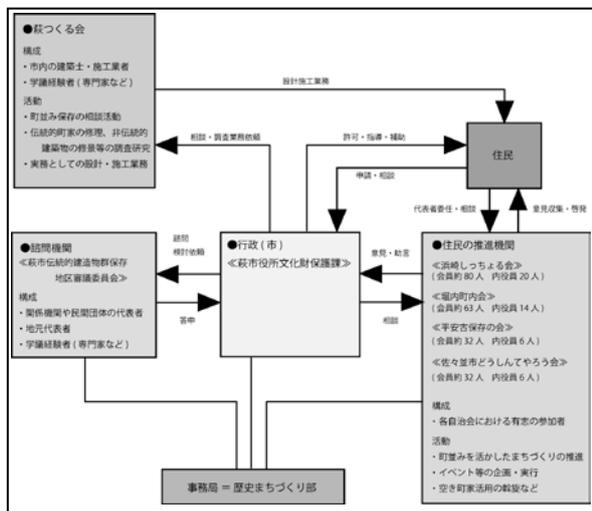


Figure 1. 萩市における修理修景の推進体制

4-1-2. 『萩つくる会』の概要

本組織は、萩市在住の設計士(12名)、施工業者(9名)、行政職員(2名)、専門家(1名)、高校教諭(1名)、個人(1名)によって構成されている有志の組織である。

結成の経緯としては、平成 14 年の浜崎地区の伝建指定によって、歴史ある景観を守るまちづくりが本格化することになったことが結成のきっかけである。

当時萩市は、全国で第一号の重伝建地区となった一方で、造作物の修景工事が中心であったため、伝統工法の建築物を修理工事するノウハウや技術者が不足していた。それを危惧した行政側が、浜崎指定の前年度に建設業者や有志の参加者による「萩らしい住まいの研究会(仮称)」として準備会合をもった。その後、準備会合の参加者とともに、技術者の体制や伝統工法の修景修復工事の手法を確立していた八女福島・筑後吉井に赴き、研修会・見学会を行った。

それにより浜崎指定に際して全国で初となる行政担当者・建築設計士・施工業者の修理修景工事に携わる三者から成る組織『萩つくる会』を改めて結成した。

4-1-3. つくる会の結成とその取り組みに対する効果

会員が抱えている課題に対して、(A)修理修景の指針となるマニュアル作成を行い、設計者の認識の差異や誤解を解消させる取り組み(B)修理修景の現場見学会や技術研修により、業者間の交流・技術の共有や向上を生み出す取り組み(C)地元高校・大学と連携し、若い人材の確保と後継者を獲得する取り組み(D)事前調査の限界に対して、有識者によるサポートを行う取り組み、の4つに整理することができ、つくる会の中で協議し、積極的な課題解決に取り組んでいる実態が明らかとなった。

(A) 修理修景の指針となるマニュアル作成を行い、設計者の認識の差異や誤解を解消させる取り組み

萩市での伝建指定当初、修理修景工事基準は文字表記のみであり、設計者が十分な知識を持たない場合、認識の差異や誤解が生じることが問題となっていた。それらの課題に対してつくる会メンバーや大学研究機関、行政担当者によって、萩市の景観の特徴を構成する伝統様式や建築物の仕様を図解入りで詳しく示した修理修景の際の指針となるマニュアルが作成された。それにより設計者の修理修景の基礎知識が向上し、より円滑に工事を行えることとなった。

(B) 修理修景の現場見学会や技術研修により、業者間の交流・技術の共有や向上を生み出す取り組み

伝建指定当初、行政と業者による連携を取った修理修景工事ができていなかった。地元業者間においても設計・施工に関してグループ化がされており、工事に関する共通する情報や設計士・施工業者の間でのつながりも希薄であった。また、工事に関する許可基準が定められ、伝統工法に関する知識や技術を学ぶ必要性が生じた。それらの課題に対して、つくる会では①八女福島、筑後吉井、甘木市秋月等の先進地に出向き、技術指導・意見交換会②萩市外の山口県在住の漆喰塗職人、大工を招き、技術指導・意見交換会③全国作事組協議会に参加し、伝統工法の技術や修理修景に関する意見交換④つくる会会員の修理修景の現場見学による意見交換会、を主体的に実施している。それによって、つくる会メンバーの中で、伝統工法を用いた修景・修復工事に関する知識・技術が向上し、また協議や話し合いの場が生

まれ、業者間の顔の見える関係が形成された。

(C) 地元高校・大学と連携し、若い人材の確保と後継者を獲得する取り組み

建設業者の高齢化や人材不足の課題に対して、修理修景を将来、担う若手設計士・大工を育成するため、地元工業高校の教員や大学教員をつくる会メンバーの中に招き、教育機関のインターン制度を用いて若い地元の人材を伝建の修理修景工事に携わる機会を設けることで、修理修景に携わる設計事務所や工務店に若い人材が入所する流れをつくっている。

(D) 事前調査の限界に対して、有識者によるサポートを行う取り組み

伝建地区における文化庁所管事業になる事例に関しては、事前調査の対価を支払われることはない。そのことから、十分な調査ができず、解体工事が始まってから発見する構造的欠陥により、追加工事が発生し、設計図書を書き直しや施工費の変更が起きるといった悪循環が生まれている。この課題に対し、つくる会では設計図書作成の際、会員の有識者や行政担当者が相談役となり、両者立会いのもとに設計者・施工業者とともに事前調査を行うようにし、悪循環が生まれないような仕組みを作っている。このことによって、会員全員が事前調査を積極的に行うようになり、施工業者との密な連携を取る契機となった。

4-2-1. 柳井市における修理修景の推進体制

柳井市では昭和 54 年に古市金谷地区が重伝建地区に指定されており、その修理修景は(Figure 2)の流れで進められ、住民自らが設計・施工業者を指名し、行政は業者から提出された書類の申請・許可を行うのみである。修理修景に関して行政側は一步引いた立ち場をとっている。

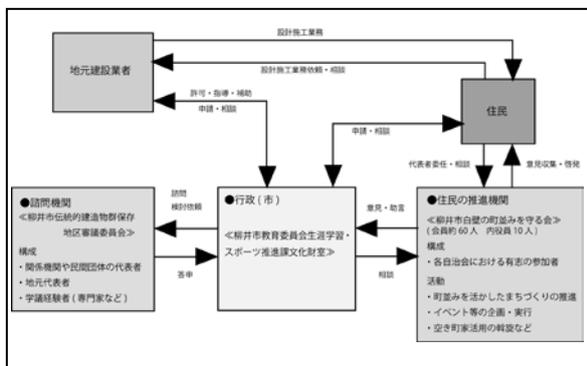


Figure 2. 柳井市における修理修景の推進体制

4-2-2. 地元建設業者の取り組みとその効果

伝建地区では前述の萩つくる会のような建設業者による組織化が行われていないため、修理修景工事実績が多く、なおかつ現在も業務を行っている工務

店 5 社を対象にヒアリング調査を行った。また前述の内容と同様に以下の 2 項目に整理した。

(E) 外部人材を招き、不足している技術者を補完する取り組み

柳井市の建設業者には現在、漆喰職人・板金職人がおらず、修理修景を柳井市内の職人では行えない状態である。その課題に対し、工務店側が市外の職人を地縁関係や業者間の紹介をもとに招き、一定の質の工事を行うことを可能にしている。

(F) 有識者の助言・参加により設計・施工・調査を円滑に行う取り組み

柳井市にいる建設業者の内、現在も修理修景に携わっている業者は 3 社のみであり、全盛期の 1/3 となっている。そのほとんどは廃業し、残った 3 社も代替わりがされ、修理修景工事から離れている傾向にある。その中で以前のような事前調査や修理修景の質を維持することは困難である。この課題に対し、設計士・施工者自らが修理修景を行った元大工や柳井市で歴史研究を行っていた有識者に助言を求め、知識を獲得している。また、事前調査時に不明な点があった場合には有識者が現場まで同行し、具体的な調査を行う。

関連業種	課題・問題点	「萩つくる会」による取り組み	効果
設計士 施工者 行政	修理修景に対する認識の差異や調整 修理修景に関する基礎知識の不足	会員・研究機関・行政による事前調査に関する修理修景の基礎知識のマニュアル作成	修理修景に関する正しい認識を確立 業主との相互理解を深める
設計士 施工者 行政	関連業者間のつながりが希薄 情報共有の場がない	工事現場の見学会の実施 年 1 回の総会を実施	業者間の修理修景の共通認識が向上 業者間の交流が深まる
設計士 施工者	後継者等の人材不足	会員に工業高校教員・大学教員を招き、学生が現場体験を兼ねたインターン制度を実施	若い人材の確保
設計士 施工者	修理修景技術の不足	修理修景の先進地での技術研修 工事現場での職人による技術指導 全国的な職人協会の参加	修理修景の質が向上 技術者同士のネットワークの形成
設計士	事前調査の限界	会員の有識者や行政担当者や相談役となり、サポートする体制を形成	設計プロセスに事前調査を組み込む 調査方法の知識を得る
設計士	設計・設計管理の粗さ	※現在は具体的な取り組みはなされていない	※効果は得られていない

関連業種	課題・問題点	地元建設業者による取り組み	効果
設計士 施工者	後継者等の人材不足	市外の職人を招き、工事を依頼	人材の確保 修理修景の質の向上
設計士 施工者	修理修景技術の不足	地元の元大工に助言を求める	修理修景の質が向上
設計士	事前調査の限界	業者個人が積極的な調査を行う 審議会の有識者に助言を求める	事前調査の手法の知識を得る
設計士	設計・設計管理の粗さ	※現在は具体的な取り組みはなされていない	※効果は得られていない

Figure3. 課題・効果の整理(上. 萩市 下. 柳井市)

5. 先進事例調査

修理修景に関する先進組織の建設業者による具体的な取り組みを調査した。調査方法は先進組織の代表者又は行政担当者に重伝建地区での【課題・取り組み・効果】に関する聞き取り調査を行った。調査対象は修理修景の先進地であり、建設業者間による具体的な活動が確認されている福岡県八女福島、筑後吉井、和歌山県湯浅町とした。

Table1. 調査地と先進地との取り組みの整理

課題名称	八女町並みデザイン研究会		筑後吉井町並み設計会		湯浅のまちなみ研究会		萩づる会		柳井建設業者(組織化なし)	
	取り組み	効果	取り組み	効果	取り組み	効果	取り組み	効果	取り組み	効果
①修理修景に対する認識の差異や伝統的修景に関する基礎的知識の不足	会員・研究機関・行政による業務維持に関する修景修景の伝統的マニュアル作成	修景修景に関する正しい認識を獲得	会員・研究機関・行政による業務維持に関する修景修景の伝統的マニュアル作成	修景修景に関する正しい認識を獲得	会員・研究機関・行政による業務維持に関する修景修景の伝統的マニュアル作成	修景修景に関する正しい認識を獲得	会員・研究機関・行政による業務維持に関する修景修景の伝統的マニュアル作成	修景修景に関する正しい認識を獲得	△	△
②関連業者間のつながりが希薄 情報共有の場がない	※1	—	※1	—	※1	—	工事現場の実施	業者間交流が深まる	※3	—
③後継者等の人材不足	修理現場ツアーや公開の技術研修の実施	若い人材の獲得や他の地域の設計士の加入	八女地区など他の伝建地区の職人に依頼	修景修景の体制を整える	他の伝建地区の職人に依頼	修景修景の体制を整える	地元学生によるインターンの受け皿となり、人材育成を行う	若い人材の確保	他の伝建地区の職人に依頼	修景修景の体制を整える
④修理修景技術の不足	工務店が各々、若い職人を積極的に現場に出し技術指導を行う	左官や板金などの職人が育成され、代替わりが円滑に行われる	研究者や他地区の職人による技術指導を依頼	技術や伝統工法に関する知識の向上	研究者や他地区の職人による技術指導を依頼	技術や伝統工法に関する知識の向上	研究者や他地区の職人による技術指導の依頼や先進地視察	技術や伝統工法に関する知識の向上	研究者や他地区の職人による技術指導を依頼	技術や伝統工法に関する知識の向上
⑤事前調査の限界	※2	—	行政から年100万円の業務委託を受け、地区内の建物調査を実施	建物調査資料のストックを作成、修景修景時にはそれを活用し円滑な調査を遂行している	△	△	有識者によるサポート体制を形成	調査方法の知識を得、調査が円滑に行える	有識者に助言を求める	—
⑥設計・設計管理料の低さ	従来6%から10%へと引き上げた(工作物は15%)	修景修景に関する設計士の増加	H24年度より筑後吉井独自の伝建設計監理業務単価表を作成	△	△	△	△	△	△	△

※1 重伝建指定以前から準備委員会等による建設業者の組織化がされていたため、課題として認識されていない。
 ※2 設計・設計監理料を10%としているため、事前調査に関する課題は認識されていない。
 ※3 各業者が個人で活動しているため、情報共有や交流をあまり必要としていないため、課題として認識されていない。
 △ 課題としては認識しているが、具体的な取り組みはなされていない。

Table2. ヒアリング対象者と組織構成

対象組織	活動の中心組織	主な構成メンバー
八女町並みデザイン研究会	設計事務所(単独)	設計士 工務店 行政
筑後吉井町並み設計会	設計事務所(複数)	設計士
湯浅のまちなみ研究会	工務店(複数)	設計士 工務店 文化財技術者 大学研究者

5-1. 先進地事例との比較

山口県下5地区で抽出した課題に対し、先進地での具体的な取り組みについて以下に整理した(Table1)。中でも八女福島・筑後吉井では③から⑥のような高い効果が期待できる取り組みがあった。

特に注目すべき点は⑤の筑後吉井と⑥の八女福島・筑後吉井の取り組みである。⑤の筑後吉井では行政側から業務委託金として100万円の事前調査費が計上され、建物調査記録のストックを作成している。また、⑥の設計料に関しては八女市では設計料を6%から10%に引き上げ、筑後吉井では伝建設計監理業務単価表を作成し、適正な対価を支払う制度を定めた。

⑤や⑥は萩・柳井においても課題としてあるが、根本的な解決を図る取り組みはなされていない。特に設計料に関しては八女福島・筑後吉井のどちらも建設業者による組織の積極的な行政に対する働きかけによって実現したものであり(⑤の筑後吉井も同様)、萩・柳井においても建設業者の働きかけによって実現可能な課題と考えられる。また、③で言うと、柳井・筑後吉井・湯浅は外部人材を呼ぶことでの一時的な取り組みでしか課題を解決していない一方で、萩や八女が行っている地元建設業者に若い人材を呼び込み、育成する取り組みは人材の確保と技術力の継承という結果を残している。中でも今回調査を行った萩での取り組みは先進地の事例と比べても見劣りしないものである。

6. まとめ

本研究では山口県下5つの重伝建地区において保全、修理に携わる建設業者の実態を把握することができた。

萩市では建設業者・行政担当者・教育関係者による独自の組織『萩つくる会』が重要な役割を担っている。また、彼らの取り組みは(A)有識者・建設業者・行政の相互理解を深めるマニュアル作成(B)業者間の交流、技術の共有のための見学や研修等の実施(C)教育機関との連携による人材確保(D)事前調査の有識者によるサポートの4つに整理でき、それらは、先進地と比べても同等、もしくはそれ以上の効果を生む取り組みが多いことが明らかとなった(Table1)。今後、景観維持における建設業者の組織化に関するモデルとなることが期待される。一方、柳井市では(E)外部人材による技術者の補完(F)有識者によるサポート体制の確立に整理することができ、市外からの人材によって景観維持を行い、市内の工事を行う人材が不足している事態が明らかとなった。また、建設業者の景観保全に対する意識が低く、修理修景に関する人材不足・技術力の低下という問題に危機感を感じていない業者が多く、今後、修理修景を継続して行うために、建設業者の組織化、人材の育成、後継者の確保が喫緊の課題であることが明らかになった。

参考文献

- 1) 歴史的遺産の保存・活用とまちづくり 大河直弥 三船康道
- 2) 萩市伝統的建造物群保存活用のあらまし 萩市教育委員会
- 3) 八女福島のまちづくり 福岡県八女市 八女福島町並み保存委員会
- 4) 萩市堀内・平安古伝統的建造物群保存対策調査報告 萩市教育委員会

(平成26年2月12日受理)